



「なぜ…？」をやめてみませんか

「なぜイヌはあんなに種類があるの?」、「ポン酢のポンって何?」、……。毎週金曜日の夜、テレビの中の5歳のチョコちゃんに、「ポーっと生きてんじゃねえよ!」と叱られているのは私だけではないと思います。当たり前とっていたことを説明できず、正解を知って開眼すること然りですが、チョコちゃんが発するような素朴な疑問をもてない自分を悲しく思うこともしばしばです。

好奇心旺盛な幼児は、「なぜ?」を連発します。それは学びのスタートであり、外界に対する興味・関心の芽生えでもあります。大人はその問いを大切にし、丁寧に疑問を解決する手助けをしてあげる必要があります。「そんなの当たり前でしょ」では、大人としての責任を果たしていることにはなりません。

この「なぜ?」ですが、子どもが成長して中学生期になると、親の方が使うことが多くなると言います。「なぜ服を脱ぎ散らかすの」「なぜ宿題を先にやらないの」「なぜゲームばかりしているの」……。しかしながら、私にも心当たりがあるのですが、素朴な「なぜ?」とは違い、問い詰めたところでなかなか解決に至りません。むしろ、険悪な空気をその場に残すだけとなることがほとんどです。言われた方は、頭の中であれこれ理由を探しますが、答えがよくわからず黙り込んでしまうことが往々にしてあります。そこで代わりに、「どうしたいの」と問いかけてみることを提案したいと思います。指示ではなく対話を生み出すためです。勿論、親として「自分はこう思う」というメッセージを発信する必要がありますが、対話の中で子どもが自己決定する機会を与えてほしいのです。他人に言われたことはやれないことがあっても、自分で決めたことは意外とやるものです。全く失敗がないとは言いませんが、失敗してもそこから学びます。少なくとも、先回りして失敗しないように指示したり「転ばぬ先の杖」を用意したりするよりは効果的です。

コロナ禍故に子どもの在宅時間も増え、かつてなかった課題に直面されているご家庭もあろうかと思えます。そんな時、「なぜ…?」を避けた投げかけが奏功するとも限りません。本校では、生徒指導において、「何に困っているのか」「どうしたかったのか」「どうしてほしいのか」というような問いかけを大切にしています。生徒の自己決定を通して自主性・自立性を育むことを意図しているからです。ポーっとしては生徒の機微に触れる指導はなかなかできません。生徒にかかわるすべての大人が同じ方向を向くことができたなら、教育効果は鬼に金棒です。

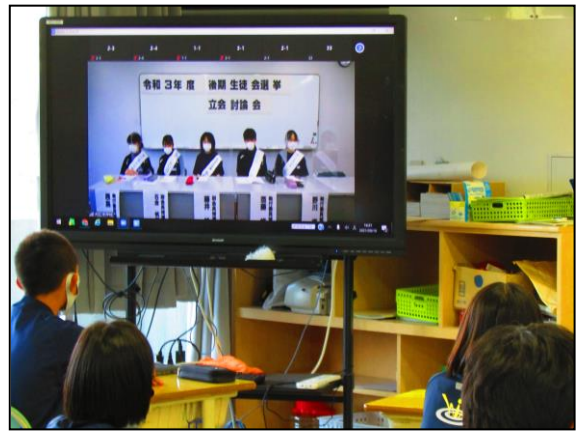


<文責：校長>

☆生徒会役員選挙が行われました

今回は、オンラインによる立合討論会、タブレットを活用した投票を取り入れた新しい形での選挙となりました。コロナ禍でいろいろと制限がある学校生活の中で、ICTの活用が広がりを見せています。

新しく発足する生徒会執行部メンバーを中心に、後期もがんばっていきます！



後期 生徒会執行部

会長 : [2年] 大野
 副会長 : [2年] 板倉
 : [1年] 石倉
 執行委員 : [2年] 柴田 川口
 : [1年] 西島 野川



☆かしわ祭に向けてスタート

スローガン「闘志を燃やせ 我らが主人公」

今年度は、感染症拡大防止のため、種目の数、内容を絞って実施することになりました。残念な気持ちはありますが、生徒も職員も「厳しい状況の中でも楽しさを見いだし、できることをやろう」と前向きに動き始めています。

令和3年度「かしわ祭」ポスター

～応援団長～

(黄) 小澤 (赤) 井上



(緑) 和多 (青) 笹原



1年 木村



2年 野田



3年 平田

☆制服検討委員会を実施しています

学校評議員、保護者代表 (PTA 三役)、生徒代表による制服検討委員会を受けて、大仁中保護者、大仁小、北小 6年保護者を対象にアンケートを行いました。集計結果は、「いわゆる『第3の制服』を選択肢の一つに加えること」について、賛成 51.4%、どちらとも言えない 23.7%、反対 5.9%、未回答 22.0%となりました。さまざまな理由から、必要に応じて「ブレザー&スラックス」選べる環境を整えられるよう、さらに検討を進めます。